

## は し が き

美保湾は裏日本屈指の漁港、境港をひかえて古くから開発された漁場であって、県下の沿岸漁業総漁獲量の半を占める水揚げがあり、肥沃度の高い好漁場である。

昭和27年、日野川河口域に日本パルプ米子工場が建設されて以来、工場廃水による漁業被害がしばしば問題とされてきた。

その後、昭和41年11月にはこの水域一帯が中海地区新産業都市の指定を受けたため、工業開発は今後一段と促進されることが予想される情勢となったが、これにともなって水質の汚濁による水産資源への悪影響が一層憂慮される事態となったため、水産庁の委託を受けてこの調査を実施した。

調査対象水域は、島根県八束郡美保関町地蔵崎と鳥取県西伯郡大山町阿弥陀川河口を結ぶ直線の内側としたが、関係市町村のうち、島根県に属する美保関町は社会的調査の対象から除外した。

なお調査の実施に当って、浮遊生物の査定をしていただいた鳥取大学教育学部・恩藤芳典教授に厚くお礼申し上げます。